

■ 図書館情報システム機能要件

分類	No.	要求機能
全般、共通事項		
基本仕様		
インフラ	1	クライアントOSはWindows10以降であること。
	2	利用者公開システムはiOS/Androidに対応したシステムであること。
	3	図書システムの各業務は最新のインターネットエクスプローラ(IE11以降)上で動作可能であること。
セキュリティ	4	図書館システムは、セキュリティに配慮し、ブラウザからプラグイン (applet) やクライアントで動作する仕組み (JWS) などではないこと。
	5	図書館システムは、インターネットエクスプローラのみをアップデートすれば、セキュリティ対策が実施できる仕組みとすること。
	6	図書館システムは、セキュリティに配慮し、クライアントにjavaをインストールしなくても動作すること。
	7	メール送信機能は、セキュリティに配慮し、SMTPSに対応していること。
	8	オペレータID/パスワードによるセキュリティー管理ができること。また、オペレータID毎に業務メニューの設定ができること。
	9	貸出/返却/予約や、利用者登録/検索等、意図的に利用者情報を参照する機能を使用時、自動的にアクセス記録の保存ができること。
	10	以下のアクセス情報が保存できること。 (アクセス日/時刻、アクセス館/IPアドレス/オペレータID、アクセスした業務、アクセスされた利用者番号)
	11	アクセス記録を保存する/しないを任意設定で変更できること。
	12	保存されたアクセス記録を帳票印刷できること。またアクセス記録各項目を抽出条件として指定でき、絞込み印刷ができること。
	13	保存されたアクセス記録をCSV形式にデータ出力できること。またアクセス記録各項目を抽出条件として指定でき、絞込みデータ出力もできること。
	14	特定の利用者情報を扱う帳票印刷やデータ出力時に、パスワード認証(入力チェック)ができること。
言語	15	多言語(UTF-8)を扱えるシステムであること。
操作性	16	処理選択・コード値選択等がマウスおよびファンクションキーで操作できること。キーボード操作も可能で各入力項目間の移動もTABキー・矢印キーで可能であること(矢印キーは上下矢印による移動も可能であること)。
	17	入力項目のカーソル位置が一目で分かるように色等による強調表示ができること。
	18	入力項目で複数エラーが発生した場合は、どの入力項目がエラーなのかが一目で分かるように注意表示による強調表示ができること。
	19	日付項目はカレンダーからの入力ができること。
	20	カレンダー上にて図書館の休館日を確認できること。
	21	コード項目はプルダウンからの選択が可能なこと。
	22	プルダウンに表示される順番は入れ替えができること。
	23	各種確認画面でのYes/No選択を、バーコード走査でできること。
	24	各関連業務内の処理画面(窓口業務内の貸出、返却等)の個々の展開はホーム画面に戻らなくてもできること。
	25	業務画面は、ディスプレイ解像度に従って最適なレイアウトで構成されること。(画面最大化)
	26	IE使用時に複数ウィンドウ処理ができること(例：複数業務の起動を行い資料登録途中に入力を中断し、貸出処理を行い、その後中断していた資料登録を継続可能)。 ※リライトカードリーダーライタやIC機器等の外部機器接続端末では単画面運用。
	27	1画面内でタブ切替えにより複数の情報を表示できること(例：貸出画面で貸出状況、予約状況、利用者通知が切替え表示可能)。また、各タブに件数を表示できること。
	28	画面で表示する各種一覧は、選択された明細または特定の項目に関し、コピー&ペーストが可能なこと。
	29	表示中画面から全ての他画面へ切り替えが可能なこと(例：貸出⇒書誌登録)
	30	各業務画面から、オペレータの切り替えが可能なこと。
	31	バッチ処理に必要なインプットファイルをドラッグアンドドロップの簡単操作で指定できること。
保守性	32	サーバコンピュータ本体内にディスク装置を2重化し、システムおよびデータのバックアップ機能があること。
	33	一台の端末からシステム共通の設定変更が行えること。
	34	一台の端末から各クライアントIDの設定変更が行えること。
拡張性	35	図書館システムは、公共・学校を含む200台規模の図書館運用を保証するシステムであること。
	36	図書館システムは、オプションなどを追加することによりリライトカード、IC機器などの外部接続に対応できること。
その他	37	図書館業務メニューから、他関連Webサイト(県立図書館等)を表示できること。また、Webサイトのリンクは任意に設定できること。
	38	職員向けの「おしらせ・イベント情報」表示ができること。「おしらせ・イベント情報」は任意、かつ、複数の設定、表示が可能であること。
	39	業務ホーム画面に「当日の利用状況」表示ができること。

窓口業務—貸出・返却業務	
貸出	
1	カウンターにおいて利用者に資料の貸出サービスを行い、個人貸出・団体貸出・相互貸借・館内閲覧・宅配に対応できること。
2	画面の背景色(テーマカラー)を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。
3	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
4	一覧表示枠や利用者情報表示枠について、表示サイズがオペレータID毎に設定できること。
5	利用者コードと資料コードのバーコード走査のみで処理が可能なこと。
6	バーコード走査により、「貸出確定」「貸出画面/返却画面切替」ができること。
7	利用者カードを忘れた利用者の場合、貸出画面内で利用者検索し利用者特定～貸出処理が可能なこと。
8	利用者カードを読み込んだ利用者について、詳細情報表示や登録内容の更新が可能なこと。
9	利用者の有効期限が迫っている場合、貸出画面で通知・更新可能なこと。
10	各処理ボタンに割り当てられたバーコード走査により、各処理が実行できること。
11	館毎かつ利用者資格毎に貸出規則(貸出日数・延期日数・延期回数・督促警告回数・貸出冊数・合計貸出冊数)設定ができること。さらに、貸出日数・延期日数・貸出冊数は資料種別毎にも設定できること。主な貸出規則毎の現在貸出数が表示できること。
12	延滞利用者に対して、貸出を行うかどうかを判断できること(確認せず貸出させないこともできること)。
13	相互貸借資料を貸し出ししている利用者に対してチェックを行い、メッセージを表示できること。また、返還予定日が超過している相互貸借資料を貸出中の利用者に対して、貸出を行うかどうかを判断できること。(確認せず貸出させないこともできること)
14	利用者に対する日本語コメント(忘れ物、落し物、その他の案内等)通知ができること。
15	コメント入力機能連携でコメントの追加・変更・削除ができること。コメント数は1利用者につき無制限であること。また、1回表示後に自動消去されるコメントも登録できること。
16	通知コメントが登録された利用者カードを走査した場合、優先的に通知コメントの一覧が表示されること。
17	資料についての日本語コメント(付録あり、汚れあり等)通知ができること。
18	コメント入力機能連携でコメントの追加・変更・削除ができること。コメント数は1資料につき無制限であること。
19	プライバシー保護のため書名の表示・非表示を予め設定できること。非表示設定時でもワンタッチで書名が確認できること。
20	プライバシー保護のため利用者氏名・督促日・督促回数・仮返却冊数の表示・非表示を予め設定できること。非表示設定時でもワンタッチで利用者氏名等が確認できること。
21	未登録の利用者や資料でも登録することなく、すぐに貸出できること。後から登録し貸出情報と紐づけできること。
22	貸出冊数オーバー・期限切れ利用者・督促利用者・予約有り利用者・無効利用者・コメント有り等を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知できること。
23	無効資料・除籍資料・不明資料・予約資料・持禁資料・仮登録資料・他館資料を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知できること。
24	各種チェックがかかった時、条件により、操作員の判断で続行するか中止するかを選択できること。
25	相互貸借資料を貸し出す際、利用者の返却予定日と相互貸借の返還期限日を比較し、返還期限日を超過する場合は貸出を行うかどうかを判断できること(確認せず貸出させないこともできること)。
26	貸出画面上で、利用者の現在貸出中・予約中資料一覧を表示できること(10件以上/画面)。
27	貸出中(状況)一覧画面で資料状態(「予約あり」や「延滞」等)の色分け表示ができること。また、表示文字色と背景色の変更を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。
28	貸出中の資料を選択指定することで貸出期間の延期ができること。
29	延期回数が貸出規則の回数を超過したり予約資料の時は自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知し延期の可否を判断できること。延期時に当初の貸出日を変更せず保持すること。
30	貸出延期処理時、貸出統計にカウントする/しないが設定で選択できること。
31	貸出中資料の資料コードを再走査することで継続貸出ができること。
32	継続貸出処理時、回数をカウントして継続貸出処理を制限する/しないが設定で選択できること。
33	休館日設定により、返却予定日をカレンダー管理(休館日避ける)し、また貸出画面での随時変更もできること。
34	貸出を行うと、利用者氏名、貸出本、返却予定日、貸出中本、予約待ち人数が記入された貸出情報が印刷され、利用者に渡すことができる機能を標準で有すること。自由なコメントも随時修正し、印刷できること。プリンタはレシートプリンタにも対応できること。
35	ワンタッチで本人も含め家族の貸出予約状況一覧が表示できること。
36	複数の課題図書等の特定資料に予約をしても、その内1冊貸出すと他の特定の資料の予約も消し込みができること。
37	その日1日の館毎の貸出冊数、貸出人数の概数を画面に表示できること。
38	貸出資料一覧表示時、資料識別子(図書・雑誌・AV等)が表示され、何を何点借りているか表示できること。
39	未返却資料を貸出すと、今までの貸出利用者が確認でき、同時にその自動返却処理が行われること。
40	貸出処理完了前であれば、今貸出した資料の取消ができること。また、取消し時は統計データに反映されないこと。
41	貸出画面から予約の取消ができること。
42	貸出画面から紛失処理ができ、督促の対象から外すことができること。
43	貸出画面から、紛失等による弁償処理が行え、紛失届の印刷ができること。
44	返却処理漏れなどによりシステム上は貸出中(未返却資料)扱いだが、利用者からは返却済みとの申し出があった資料について、一時的に仮返却資料として貸出中資料から除外できること。また、督促対象からも除外できること。
45	貸出画面から、利用者の仮返却管理中の資料明細を確認できること。
46	仮返却資料のバーコードを走査した時、自動で仮返却状態を解除して貸出すこともできること。
47	予約していた資料を貸出すと、予約データは消去されること。また、家族が予約した資料を貸出しても、予約データの消去ができること。
48	貸出状況一覧で、貸出処理館分の資料のみ表示と全館分の資料の表示ができること。
49	貸出状況一覧で、資料詳細画面へ遷移し、資料の最終返却者が確認できること。
50	予約資料一覧からレシート印刷ができること。
51	予約レシートに予約メモが印刷できること。

	52	予約資料一覧で、予約受取館が確認できること。確保資料は確保館が確認できること。
	53	貸出中資料一覧から資料詳細画面に展開でき、書誌情報や予約等の利用状況等の詳細情報を確認できること。
	54	貸出完了せずに離席した時、一定時間経過後、貸出完了と利用者情報の画面消去が自動でできること。
	55	貸出状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	56	予約資料一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	57	利用者毎に利用者・資料の各種メッセージを履歴表示可能なこと。
	58	付録付資料が入力された場合にアラート表示が可能なこと。
	59	予約の受取館に「自宅」を指定した場合、「宅配」を指定した貸出が可能なこと。
返却		
	1	返却資料のバーコード走査だけで返却が完了できること。
	2	画面の背景色(テーマカラー)を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。
	3	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
	4	一覧表示枠や利用者情報表示枠について、表示サイズがオペレータID毎に設定できること。
	5	各処理ボタンに割り当てられたバーコード走査により、各処理が実行ができること。
	6	書名の表示・非表示を予め設定できること。(プライバシー保護のため)。また、非表示設定時でもワンタッチで書名が確認できること。
	7	プライバシー保護のため利用者氏名・督促日・督促回数・仮返却冊数の表示・非表示を予め設定できること。また、非表示設定時でもワンタッチで利用者氏名等が確認できること。
	8	返却画面から、利用者の仮返却管理の中資料明細を確認できること。
	9	利用者に対する日本語コメント(忘れ物、落し物、その他の案内等)通知ができること。
	10	コメント入力機能連携でコメントの追加・変更・削除ができること。コメント数は1利用者につき無制限であること。また、1回表示後に自動消去されるコメントも登録できること。
	11	資料についての日本語コメント(付録あり、汚れあり等)通知ができること。
	12	コメント入力機能連携でコメントの追加・変更・削除ができること。コメント数は1資料につき無制限であること。
	13	無効資料・除籍資料・不明資料・予約資料・仮登録資料・未貸出・団体利用者貸出資料・BM貸出資料・相互貸借資料等を自動的にチェックし、音やメッセージで操作員に通知できること。
	14	無効(不明・紛失)となっている資料の返却を行うと、設定により、自動的に無効を解除することもできること。
	15	仮返却資料のバーコードを走査した時、自動で仮返却状態を解除することもできること。
	16	新刊コーナーの資料のバーコードを走査した時、自動で本来の配架場所に変更できること。
	17	相互貸借資料を貸し出している利用者に対してチェックを行い、メッセージを表示できること。
	18	返却資料のバーコード走査後、貸出画面への展開は次に貸出を行う利用者カードを走査することにより遷移できること。また、バーコードリーダだけで、「貸出⇄返却画面切替え」「貸出・返却確定」ができること。
	19	予約されていた資料が返却されると、予約対象利用者の情報を自動的に印刷できること。(印刷可否の設定ができること)。プリンタはレシートプリンタにも対応できること。
	20	予約レシートに予約メモが印刷できること。
	21	希望者には返却証明レシートの印刷ができること。
	22	A館で予約してB館で借りた本をC館で返却しても管理・識別ができること。
	23	ブックポストへの大量の返却本を連続で返却する画面を用意していること。
	24	用途に合わせて下記3種類の返却モードが用意されていること。また処理場面に応じてワンタッチでモード切替が可能なこと。 ・通常返却(開館中利用者と対面し返却する場合のモードで未返却資料をタブ切替ですぐに表示できること) ・ポスト返却(ブックポストへの大量返却時等、返却利用者チェックを行わず連続で返却が行え、返却資料が一覧画面に蓄積できること) ・履歴参照返却(通常返却の機能に加え、ポスト返却のように返却資料が一覧画面に蓄積できること)
	25	返却画面で貸出延期ができること。
	26	貸出延期処理時、貸出数をカウントする/しないが設定で選択できること。
	27	ワンタッチで本人も含め家族の貸出予約状況一覧が表示できること。
	28	基本的にプライバシー保護のため返却完了時、貸出データは消去されること。ただし、設定によって当日の返却履歴を保存し、返却完了後でも管理上返却した資料を誰が借りていたか確認することもできること。 返却履歴を保存する設定の場合は、ボタンで任意に履歴消去できること。また、業務メニュー終了時に自動消去もできること。
	29	貸出資料一覧表示時、資料識別子(図書、雑誌、AV等)が表示され、何を何点借りているかの識別ができること。
	30	その日1日の館毎の返却冊数、返却人数を画面に表示できること。(概数を表示ができること)
	31	本籍館への配送、予約資料の配送管理ができること。
	32	貸出中資料一覧から資料詳細画面に展開でき、書誌情報予約等の利用状況等の詳細情報を確認できること。
	33	返却画面表示のまま離席した時、一定時間経過後利用者状況の画面消去が自動でできること。
	34	返却状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	35	貸出状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	36	予約資料一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	38	利用者毎に利用者・資料の各種メッセージを履歴表示可能なこと。
	39	付録付資料が入力された場合にアラート表示が可能なこと。
	40	返却履歴は1日分の履歴を保持し、自端末のみ/自館端末分全て の表示切替が可能なこと。

督促	
	1 画面の背景色(テーマカラー)を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。
	2 画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
	3 一定期間以上、未返却の場合、または、返却予定日の範囲指定により、督促ハガキの印刷ができること。その際、まず、該当利用者の一覧が画面に表示でき、ハガキ印刷をする利用者を任意に選択できること。また、設定で督促回数をカウントアップでき、貸出画面で確認できること。
	4 一定期間以上、未返却の場合、または、返却予定日の範囲指定により未返却者一覧表示後、メールで督促の通知ができること。また、利用者毎にメール通知可否設定ができること。
	5 未返却者一覧表示後、延滞資料の在架チェックを行うための帳票が出力できること。
	6 督促対象資料中の予約資料のみ抽出し、督促ハガキを印刷、および、メール通知ができること。
	7 返却予定日の範囲指定により、未返却者、未返却資料一覧の印刷ができること。
	8 メール発信記録参照画面より、督促メールを発信した、利用者コード、利用者名、メール発信日、時刻、対象資料の資料コードが参照できること。
	9 督促通知メール送信時、インターバル(件数、送信間隔)を指定できること。
窓口業務一利用者管理	
利用者検索	
	1 利用者氏名(カナ、日本語、全半角の混在が可能)、電話番号、利用者コード、利用者区分、住所コード、生年月日、E-mailアドレスからの検索ができること。電話番号はハイフン抜きでも検索でき、また市外局番なしでも検索できること。
	2 利用者データ検索において生年月日、住所の郵便番号、登録館、無効理由区分で絞込みができること。
	3 利用者検索一覧では、利用者の利用者番号、利用者名、性別、利用者区分、電話番号、住所、生年月日、貸出数、予約数が確認できること。
	4 検索結果件数が予め設定した件数以下の場合、自動的に検索結果一覧画面を表示できること。
	5 登録利用者の一覧画面表示できること。また、印刷および、各種OAソフト(Excel等)で読み込み可能な形式(CSV形式)で出力できること。
	6 登録利用者の一覧出力では、管理者権限による出力制御ができること。
	7 検索中断件数を設定できること。
	8 利用者の詳細情報が表示できること。氏名、電話番号、生年月日、年齢、住所、最終利用日、最終督促日、督促累積回数、有効期限、予約順位、予約待ち順位、貸出資料一覧、予約資料一覧等が確認できること。また、印刷もできること。
	9 利用者の詳細表示は、簡易・詳細による切替が可能なこと。
	10 貸出状況一覧が表示できること。また、個人/家族、全館/自館をワンタッチで切り替えができること。
	11 貸出状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	12 貸出資料の不明/紛失/弁償処理/返却ができること。
	13 貸出資料の詳細情報が表示できること。(資料検索結果画面相当の情報)
	14 予約している資料一覧が表示できること。また、個人/家族の切り替えをワンタッチでできること。更に、予約解除や予約資料の詳細情報も表示できること。
	15 予約している資料一覧では表示される情報全項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	16 コメント入力機能連携にて利用者に通知したいコメント情報を登録できること(コメント数は無制限)。また、修正、削除もできること。
	17 プライバシー保護のため利用者一覧及び詳細画面のままで離席した時、一定時間経過後、メニュー画面へ自動で戻ることができること。
	18 利用者検索一覧では、利用者への通帳発行冊数が確認できること。
利用者登録	
	1 画面の背景色(テーマカラー)を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。
	2 画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
	3 新規利用者の登録、既存利用者の登録情報の修正、登録利用者の削除、利用者カード紛失時等の再交付処理ができること。
	4 利用者氏名は漢字を入れ、ワンタッチでの自動ヨミ振りができること。
	5 利用者氏名のヨミは漢字入力した通りに自動でヨミ振りもできること。
	6 家族の一人目を登録すると、以降は電話番号入力後ワンタッチで利用者データを複写し、氏名、生年月日、性別等を直すだけの連続登録ができること。この時入力する電話番号はハイフン、括弧の有り、無しに関わらず複写できること。
	7 利用者カードの再発行ができること。その場合、貸出・予約情報は引き継がれること。
	8 利用者氏名・住所等を全半角混在で登録できること。生年月日を西暦で登録することもできること。
	9 住所ファイルを持ち、町丁コードにより住所登録ができること。また、本辞書は住所だけでなく、クラス名、部署名等、自由に使用できること。利用者登録時は町コード入力または、選択で住所、郵便番号(7桁対応)が自動的に入力できること。
	10 住所コード数が多い時等の入力負荷軽減のため、住所コードを大分類(大字等)と小分類(小字等)とで2段階入力ができること。また、郵便番号・住所名などの直接入力によるフィルター機能を有すること。
	11 利用者氏名ヨミ、電話番号、生年月日で二重登録利用者のチェックを自動的に行えること。
	12 利用者のE-mailアドレスやパスワード情報の登録ができること。パスワードは非表示で暗号化対応であること。
	13 利用者のE-mailアドレスやパスワードの変更履歴が参照できること。ただし、参照時は特定パスワード等の認証が必要であること。
	14 年齢は生年月日からシステムが判断し自動計算であること。年次処理等の処理は不要であること。
	15 家族共通の情報(電話番号、住所)は、家族の一人を修正することで、他の家族も一括更新できること。
	16 新規登録時、検索で未登録確認後、登録画面に検索条件を複写できること。
	17 コード入力項目へ入力域が移動するとコンボボックスにコード一覧が表示され、マウスで選択入力できること。また、コード値をキーボードで直接入力もできること。
	18 郵便番号や住所名略称での住所検索ができること。

	19 貸出や返却でアラーム通知するコメント情報の追加、修正、削除ができること。また、1利用者につき設定できるコメント数は無制限とし、フリーワードの入力もできること。
	20 利用者パスワードの保守権限をログインID毎に設定できること。
	21 初期パスワードの自動発行機能、パスワード発行のメール通知/レシートへの印刷ができること。
	22 初期パスワードの自動発行時、パスワードの有効期限が設定できること。
	23 パスワード通知方法の初期値を、新規登録時と修正時で別に設定できること。
利用者管理	
	1 有効期限や最終利用日等の条件に該当する利用者を抽出し、無効区分、利用者資格区分等の情報を一括で更新できること。
	2 生年月日や有効期限等の条件に該当する利用者を抽出し、コメント情報を一括で更新できること。
	3 任意の無効日付、無効区分を指定し、一括してデータ削除ができること。あくまで、任意処理であり、年度末等に自動で削除されないこと。
	4 利用者毎にメール発信履歴が参照できること。各種メール内容(督促・予約連絡等)とその発信日時が確認できること。
	5 利用者一括登録時、初期設定されたパスワードの有効期限が設定できること。
	6 利用者情報特定後、利用者への督促処理ができること。
窓口業務－資料検索・予約	
資料検索	
	1 画面の背景色(テーマカラー)を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。
	2 面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
	3 書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目等で資料検索ができること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索ができること。
	4 各種の変長マークデータから漏れなく検索ができること。(マークデータの全てを検索対象可能とする)
	5 AND、OR、NOTを使用し、項目間の複合高速検索ができること。
	6 10件までの検索結果が履歴管理され、後からその検索結果一覧を表示できること。 また、検索履歴からその時の検索条件を復元でき、条件を付加することでより詳細な検索ができること。
	7 項目により、前方一致、完全一致および中間一致(分かち項目)、後方一致で認識し、検索ができること。
	8 各種検索キーをカナ・漢字・アルファベットの全半角両方で指定して検索処理ができること。
	9 うろ覚えのキーワードを過去に登録された文字の中から探し出し、入力する手助けができること。
	10 特定書誌の資料の所蔵資料・未所蔵資料・発注中資料等の状態が検索結果から把握でき、また、書誌の詳細情報を目録カード形式で表示できること。
	11 検索結果から所蔵の状態(不明資料・除籍・貸出中等)の把握ができること。 また、複本に対応していること。(検索結果の表示形式を「書誌」or「所蔵」単位で切替できること)
	12 検索結果は、利用可能/貸出中/貸出不可/発注あり/除籍/相互貸借資料/未所蔵により色を分けて分かりやすく表示できること。
	13 前項の表示色は任意に変更が可能なこと。
	14 指示により、検索結果の印刷ができること。
	15 印刷のほか、CSVファイルで保存やエクセルファイルで保存も可能なこと。
	16 検索中断件数を設定できること。また、設定によって最小入力文字数を任意に指定でき、検索実行時にチェックされ、操作員の判断により検索続行するか中止するかを選択できること。
	17 検索処理中断ボタン操作でも中断可能なこと。
	18 対象館を全館、自館限定、または、任意に複数館指定して検索でき、検索結果も、本が今、どの館のどこでどのような状態になっているかを一目瞭然に表示できること。
	19 所蔵場所区分、請求記号等の所蔵(ローカル)項目を一次キーとして検索ができること。また、書誌項目との複合検索もできること。
	20 対(グループ)となる書誌項目をグループ化して表示できること。
	21 資料区分をグループ化し、二次検索条件として指定できること。(一般書と児童書を分けて検索する事が可能。)
	22 ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字(例『や』と『ヤ』、『A』と『a』等)どちらで入力しても検索できること。さらに、音が同じもの(例『バ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等)も、どちらで入力しても検索できること。
	23 上記の規則を任意設定できること。
	24 洋書等の登録で英字、数字が全半角混在で入力した場合でも、全角、半角、全半角混在で入力した場合でも検索でき、検索結果は変わらないこと。
	25 資料一覧画面では通常登録順(最新が上)だが、ワンタッチで書名順、著者名順、分類順等で整列(ソート)できること。また、その整列順は図書館で任意に設定でき、5パターン以上の設定ができること。
	26 前項設定以外でも全一覧項目での並べ替えが可能なこと。(ヘッダーソートが可能なこと)
	27 資料検索結果一覧の初期表示順の設定ができること。
	28 資料詳細画面にて貸出中の資料表示時、ワンタッチで利用者詳細画面へ展開し、利用者氏名、電話番号が確認できること。
	29 資料一覧画面または、資料詳細画面から、書誌登録、所蔵登録、予約、発注へ展開できること。
	30 検索項目として使用できる項目の任意設定ができること。図書・雑誌・AV等の種別毎に設定できること。
	31 検索結果一覧として表示する項目の任意設定ができること。
	32 検索結果一覧は、項目の掛け合わせによる並び替えが可能なこと。
	33 種別(図書・雑誌・AV等)の複数指定による横断検索ができること。
	34 本に印刷されているISBNバーコードの読み取り検索ができること。
	35 発注中等の蔵書していない(未所蔵)書誌のみデータの検索ができること。
	36 雑誌のタイトル情報のみを対象として検索ができること。また、検索値未入力で全タイトル検索ができること。
	37 検索結果で利用状況一覧が表示できること。また、そこで紛失/不明/弁償処理ができること。
	38 検索結果で予約状況一覧が表示できること。また、そこで予約解除ができること。

	39	資料詳細で所蔵毎の最終利用者を表示できること。(返却後の資料等に物がはさまっていた場合等の対応)プライバシーにも考慮し、表示しないこともできること。資料別利用者リストの表示または非表示の選択ができること。
	40	検索結果一覧から特定の資料を選択し、その資料の検索キーワード(著者名等)で再検索ができること。
	41	検索結果より、その資料が配架地図上のどこにあるのが表示できること。
	42	検索結果より、その資料とリンクされているイメージ(画像)情報を表示できること。
	43	検索結果より、書庫出納票(レシート)が印刷できること。
	44	内容注記や一般注記のように、分かち書きされていない書誌事項の、文中の文言について検索できること。
	45	資料一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	46	利用状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	47	予約状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	48	国立国会図書館が保有する書誌情報と横断検索が可能なこと
	49	国立国会図書館が保有する書誌情報の検索結果がダウンロード可能なこと
	50	TRC-TOOLiサイトとの横断検索が可能なこと
	51	TRC-TOOLiサイトから取得した情報から、書誌登録・選定・発注・相互貸借の連携が可能なこと
	52	カーリルサイト(https://caill.jp/)との横断検索が可能なこと
予約		
	1	画面の背景色(テーマカラー)を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。
	2	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
	3	館毎かつ利用者資格毎に予約規則(予約有効日数・合計予約件数)設定ができること。さらに予約件数に関しては窓口・館内OPAC・WebOPAC毎に設定ができること。
	4	予約本の現在の状態(予約中、予約棚、配送中)の管理ができること。
	5	各処理ボタンに割り当てられたバーコードの走査により、画面上の各種処理選択ができること。
	6	書誌予約、所蔵予約いずれにも対応できること。予約時にどちらの方法で予約するかを選択できること。 書誌予約：複本がある場合、全ての複本に予約がかかり、どれか一冊が返却された時点で予約通知ができること。 所蔵予約：複本がある場合でも、所蔵を特定して予約をかけ、特定の所蔵が返却された時点でのみ予約通知ができること。
	7	予約した時間で予約順位を決めること。また、予約順位の変更もできること。順位変更しても予約入力日時は保持されること。
	8	本人へ貸出中資料への予約を制限できること。
	9	相互貸借資料(借受資料及び貸出中資料)への予約をチェックし、メッセージを表示できること。また、返還予定日が超過している相互貸借資料に対する予約を行うかどうかを判断できること。確認せずに予約させないこともできること。
	10	延滞利用者に対して、予約を行うかどうかを判断できること。確認せずに予約させないこともできること。
	11	相互貸借資料を貸し出している利用者に対してチェックを行い、メッセージを表示できること。また、返還予定日が超過している相互貸借資料を貸出中の利用者に対して予約を行うかどうかを判断できること。確認せずに予約させないこともできること。
	12	予約メモ入力ができること。
	13	予約件数の制限がかかること。処理館、予約種別(窓口予約、インターネット予約等)、利用者資格、資料種別(図書、雑誌等)毎の件数制限ができること。また、予約種別合計、資料種別合計での予約件数制限もできること。
	14	所蔵の貸出規則区分により、予約件数の制限がかかること。
	15	予約入力の件数統計(予約区分：窓口、OPAC、WebOPACと資料種別ごと)が出力できること。
	16	任意に予約解除ができること。
	17	予約処理で資料の検索、利用者の検索処理ができること。
	18	予約資料情報の一覧表が出力できること。
	19	館を認識した検索機能と連動し、自館の本に限定、または全館の本へ拡張して予約をかけることができ、貸出・返却業務とも完全連携ができること。
	20	資料一覧画面と連携し、資料一覧画面で複数の資料を選択し、一括予約ができること。また、課題図書等のグループ単位での予約もできること。
	21	予約資料一覧画面から、レシート印刷ができること。
	22	返却や、受入等により、利用可能となった利用者を抽出し、予約連絡一覧を表示できること。また、連絡済み/未連絡/不在の管理もできること。
	23	予約確保日(予約棚日)で抽出し、予約連絡ハガキを印刷できること。
	24	予約確保日(予約棚日)で抽出し、メールで予約連絡を通知できること。また、利用者毎にメール通知可否設定ができること。
	25	予約連絡メール送信時、インターバル(件数、送信間隔)を指定できること。
	26	予約棚(予約資料の確保状態)を変更できること。
	27	予約毎に受取希望日を指定できること。期限が過ぎた予約は自動的に取消するのではなく、操作員の判断で取消できること。
	28	予約資料の詳細表示ができること。(検索相当の表示ができること)
	29	WebOPACや館内OPACからの予約依頼状況の確認ができること。予約依頼状況より、職員判断にて本予約の可否ができること。また、予約可否結果は予約者に対してメールで自動通知もできること。利用者毎にメール通知可否設定もできること。
	30	複数の資料が全てそろった時に貸出可能とする、そらい待ち予約ができること。
	31	複数の資料を予約し、割当順位をつけ順位順に貸出可能にする順番待ち予約ができること。
	32	予約対象館を本館または現在館から選択できること。また、対象館をグループ館(グループ館：Aグループ館はA1館とA2館等)毎の予約ができること。(グループ館毎にグループ化されている館名の表示ができること。)
	33	上下巻等の複数資料に予約を行い、資料が全てそろった時に貸出可能となるセット予約ができること。
	34	予約利用者の受取希望館の選択ができること。
	35	自館に確保できる資料が無く、他館にある場合に予約機能にて配送依頼ができること。また、複数館にある場合は依頼先館を選択でき、依頼と同時に依頼先へ配送依頼票を印刷できること。

	36	予約者の受取希望館に合わせて複数の分館を地域(グループ)毎にまとめて設定できること。予約時には予約対象館を複数個指定するのではなく、予約対象地域を指定するだけで対象館全てに指定ができること。
	37	自館に確保できる資料が無く、他館にある場合、予約と同時に依頼先館のページプリンタに予約配送票を自動印刷できること。確保できる資料が複数館にある場合は、画面上で依頼先館を選択できること。
	38	予約在架一覧は自館在架を優先に出力できること。
	39	予約受取館に「自宅」が指定可能なこと。
	40	バーコードの走査だけで、予約確保の取消しが可能なこと。
	41	予約連絡メールは、自動発信もできること。
配送管理		
	1	予約配送および他館返却による配送管理ができること。誤って配送処理した場合、取消もできること。
	2	配送館状況(A館→B館)、配送日等の状況をリアルタイムに確認ができること。
	3	自館から予約配送依頼した資料の状況をリアルタイムに確認ができ、依頼取り消しもできること。
	4	他館から予約配送依頼されている資料の状況をリアルタイムに確認ができ、依頼拒否もできること。
	5	一覧画面で配送状況(配送資料名、配送元館名、配送先館名、配送日等)が確認できること。
	6	一覧画面で配送依頼状況(配送依頼資料名、配送元館名、配送先館名、配送日等)が確認できること。
	7	配送元館/配送先館毎の年間配送状況(返却時の本籍館配送、予約配送、予約取消毎の月毎配送件数)が印刷できること。
	8	他館で利用可能な所蔵がある場合、利用可能館へ配送依頼票の出力ができること。
利用者サービス—館内OPAC		
利用者開放端末(館内OPAC 全般)		
	1	最新のインターネットエクスプローラ(IE11以降)上で動作可能であること。
	2	セキュリティに配慮し、ブラウザからプラグイン (applet) やクライアントで動作する仕組み (JWS) などではないこと。
	3	インターネットエクスプローラのみをアップデートすれば、セキュリティ対策が実施できる仕組みとすること。
	4	セキュリティに配慮し、クライアントにjavaをインストールしなくても動作すること。
	5	メール送信機能は、セキュリティに配慮し、SMTPSに対応していること。
	6	書名、著者名等の検索キーワードをタッチスクリーン操作で入力し、資料の検索ができること。
	7	キーボードレス(タッチスクリーン)操作で複合キー検索により、資料の検索ができること。
	8	キーボードによる検索もできること。また、キーボード入力時はカナ漢字混在による検索ができること。
	9	書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目等で資料検索できること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索ができること。
	10	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字(例『ヤ』と『や』、『A』と『a』等) どちらで入力しても検索できること。さらに、音が同じもの(例『ハ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等) も、どちらで入力しても検索できること。
	11	検索中断件数の設定ができること。
	12	雑誌資料について、タイトル表示とタイトル毎の巻号一覧の表示ができること。また、製本した資料については、どのような資料を製本しているか一覧表示ができること。
	13	検索結果詳細として表示する項目の任意設定ができること。
	14	検索結果より、その資料とリンクされているイメージ(画像)情報を表示できること。
	15	検索結果より、その資料が配架地図上のどこにあるのか表示できること。
	16	詳細画面から予約申込ができること。
	17	予約方式は、直接予約方式・予約依頼方式の選択ができること。
	18	予約件数の制限がかかること。処理館、予約区分、利用者資格、資料毎の件数制限ができること。
	19	所蔵の貸出規則区分により、予約件数の制限がかかること。
	20	延滞利用者に対して、新規予約を行えないように制限できること。
	21	特定の利用者資格のみ予約可能となるよう制限できること。
	22	本人へ貸出中資料への予約を制限できること。
	23	連絡方法、受取館などの予約関連情報を、利用者単位に初期値設定できること。
	24	他館資料に貸出可能な資料がある状態でも、予約できること。
	25	他館資料に貸出可能な資料がある状態でも予約した場合、資料所在館に予約依頼票を印刷できること。
	26	予約申込時、申込内容の確認画面を表示できること。
	27	予約完了時、確認メールを利用者に送信できること。
	28	予約完了時、利用者控えの出力ができること。
	29	おすすめの本をテーマとして登録しておき、一覧表示できること。また、テーマは「検索キーワード指定」「バーコード指定」のどちらでも可能なこと。
	30	一定時間経過後、自動的にトップ画面に戻れること。
	31	催し物や新刊情報の表示、休館日等の図書館からのお知らせ表示ができること。
	32	OPAC各機能の利用回数統計が出力できること。
	33	画面遷移をパンくずリストとして表示し、パンくず指定にて画面遷移できること。
	34	館内OPAC背景画像の変更が可能なこと
	35	館内OPACマスコットの変更が可能なこと
	36	利用者初期パスワードの有効期限が設定されている場合、パスワード変更を促すメッセージが表示できること。
	37	予約申込時に指定した連絡方法・受取館・受取ステーションを次回予約申込時に表示できること。
	38	無効利用者に対して利用者サービスの機能制限ができること。

利用者開放端末(館内OPAC 大人向け)	
1	検索項目を特定せず、検索語のみの入力で検索できること。
2	検索項目を指定するキーワード検索もできること。
3	キーワード検索にて、全館対象/自館限定/特定館(任意の複数館)限定の指定ができること。また、自館所蔵の資料に限定した検索ができること。
4	全文検索ができること。
5	NDC分類一覧からの選択・参照入力ができること。また、この時、NDC8版と9版の版数選択もできること。
6	著者名=イケナミシヨウタロウのように、特定の検索条件を事前に登録しておき、ワンタッチで検索できること。
7	雑誌ジャンル(例:スポーツ、車、旅行、等)を登録しておき、特定ジャンルの雑誌タイトルを一覧表示できること。
8	ベストリーダ一覧が表示できること。ベストリーダは資料の分類や利用者の年代を指定して一覧表示できること。
9	ベスト予約一覧が表示できること。
10	検索結果一覧は図書、雑誌、視聴覚等の単位で表示できること。
11	検索結果一覧を並び替えできること。
12	検索結果一覧に条件を追加し、絞り込みできること。
13	検索結果一覧が複数ページにわたる場合、移動先ページを指定して遷移できること。
14	検索結果一覧の印刷ができること。
15	雑誌資料の場合、タイトル一覧から巻号一覧に展開できること。
16	巻号一覧は発行年月日の降順に初期表示できること。
17	巻号一覧に条件を追加し、絞り込みできること。
18	一覧表示から一件を選択し詳細表示できること。
19	詳細画面では主要な項目(タイトル、シリーズ、責任表示等)を初期表示し、展開して詳細事項を表示できること。
20	詳細画面に所蔵点数、貸出中点数、予約件数が表示可能なこと。
21	製本資料の場合、製本された子資料の表示ができること。
22	内容細目や記事内容など、構成要素の書誌事項を表示できること。
23	請求票、書庫出納票の印刷ができること。書誌番号、資料コードのバーコードの印刷ができること。
24	詳細画面で、次ボタン、前ボタンで一覧の明細を移動できること。
25	別項のこども向け読書ナビゲーション機能と連携し、表紙画像の表示ができること。
26	利用者カード番号とパスワードでログインできること。
27	利用者の貸出中資料を照会できること。延滞や予約の状況もあわせて表示できること。
28	利用者の予約中資料を照会できること。受取館や待ち人数を表示できること。
29	貸出中資料照会画面から、貸出延長申込ができること。
30	延滞利用者に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
31	相互貸借資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
32	予約中資料照会画面から、予約の取消し申し込みができること。
33	貸出状況、予約状況の印刷ができること。
34	旧パスワードの認証入力により、パスワードの変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
35	パスワードの認証入力により、メールアドレスの登録・変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
36	変更処理の完了通知メールの送信ができること。
利用者開放端末(館内OPAC こども向け)	
1	検索項目を特定せず、検索語のみの入力で検索できること。
2	複数の単語を空白区切りで入力し、単語同士のAND条件で検索できること。
3	こども向け画面では、こども向けの資料(区分で制御すること)に限定した検索ができること。
4	キーワード検索にて全館対象/自館限定/特定館(任意の複数館)限定の指定ができること。また、自館所蔵の資料に限定した検索ができること。
5	著者名=チヨウシンのように、特定の検索条件を事前に登録しておき、ワンタッチで検索できること。
6	ベストリーダ一覧が表示できること。
7	検索結果一覧は資料管理区分単位で表示ができること。
8	雑誌資料の場合、タイトル一覧から巻号一覧に展開できること。
9	検索結果一覧の印刷ができること。
10	巻号一覧は発行年月日の降順に初期表示できること。
11	一覧表示から一件を選択し詳細表示できること。
12	詳細画面では主要な項目(タイトル、シリーズ、責任表示等)を初期表示し、展開して詳細事項を表示できること。
13	製本資料の場合、製本された子資料の表示ができること。
14	内容細目や記事内容など、構成要素の書誌事項を表示できること。
15	請求票、書庫出納票の印刷ができること。書誌番号、資料コードのバーコードの印刷ができること。
16	詳細画面で、次ボタン、前ボタンで一覧の明細を移動できること。
17	別項のこども向け読書ナビゲーション機能と連携し、表紙画像の表示ができること。
18	利用者カード番号とパスワードでログインできること。
19	利用者の貸出中資料を照会できること。延滞や予約の状況もあわせて表示できること。
20	利用者の予約中資料を照会できること。受取館や待ち人数を表示できること。
21	貸出中資料照会画面から、貸出延長申込ができること。
22	延滞利用者に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
23	相互貸借資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
24	予約中資料照会画面から、予約の取消し申し込みができること。

	25	貸出状況、予約状況の印刷ができること。
	26	旧パスワードの認証入力により、パスワードの変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
	27	パスワードの認証入力により、メールアドレスの登録・変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
資料管理業務		
図書管理		
	1	各種可変長マークデータは完全に取り込むことができること。(完全可変長項目数対応)
	2	複本のデータ管理ができること。
	3	マークのタグ・サブ項目とデータベースの属性・項目を任意に設定でき、最適な運用環境を実現できること。
	4	著者名、叢書名、出版社名、書名等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力ができること。
	5	NDC分類一覧からの選択・参照入力ができること。また、この時、NDC8版、9版、10版の版数選択もできること。
	6	書名・著者名等にて入力した漢字項目から自動的にヨミ振り分かちができること。
	7	書名などカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては、漢字入力した通りに自動でヨミ振りできること。
	8	漢字で入力された項目を自動的に分かちして、中間検索対象にできること。
	9	各種マークに対応した、豊富なローカル情報を持てること。
	10	ローカル情報に本籍・現在館の詳細情報を持ち、分館業務に完全対応できること。
	11	複数行にまたがったデータを漏れなく入力することができること。
	12	対(グループ)となる書誌項目をグループ化して登録できること。
	13	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列する為の序数化の自動付与ができること。
	14	TRC-Tマーク：新刊マーク、抽出マーク、ローカルデータを項目のもれなく一括登録できること。
	15	TRCマーク：内容細目ファイル、学習件名ファイルを一括登録でき、検索に活用できること。
	16	TRCマーク：内容細目入力の際には1つの書誌に対して制限無く登録できること。また人名についても制限無く登録できること。
	17	TRC-Tマーク：典拠ファイルを一括登録することができ、検索に活用できること。
	18	TRCマーク：目次ファイルを一括登録できること。
	19	TRCのTOOLiとシームレスな連携ができること。TOOLi検索の結果から、マーク情報を確認し、図書登録画面にマーク情報を直接ダウンロードできること。この時、内容細目もあれば同時にダウンロードできること。
	20	TRCのTOOLi Ver3.0に対応していること。
	21	日販マーク：新刊マーク(NSマーク可変長、NSマーク固定長、ニッパン発注管理用データ)、抽出マーク(NSマーク可変長)、ローカルデータを項目のもれなく一括登録できること。
	22	大阪屋マーク：新刊マーク(OPL新刊マーク(可変長、固定長))、抽出マーク(OPL原簿マーク(可変長、固定長))、ローカルデータ(OPL蔵書マーク(可変長、固定長))、内容細目情報(可変長)を項目のもれなく一括登録できること。
	23	所蔵登録画面でタブ等の切替により1画面にて、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること。
	24	請求記号は別置、NDC分類、著者記号、巻冊記号の4つに分けて登録できること。それぞれの入力文字属性に応じIMEのON/OFF制御ができること。
雑誌管理		
	1	タイトル書誌一覧機能により入力が簡略化でき、タイトル/巻号の書誌連携が容易であること。雑誌タイトル(タイトル書誌)は、雑誌コードによる呼出しができること。
	2	タイトルと各巻情報を分けて管理し、検索できること。
	3	雑誌タイトルが改題された場合、変遷前タイトル書誌と変遷後タイトル書誌の関連付けができ、検索でどちらかのタイトルでヒットしても関連タイトル書誌情報が参照できること。また、複数のタイトル書誌の合併や1つのタイトル書誌からの派生/分離にも対応できること。
	4	タイトル一覧画面より巻号(バックナンバー)一覧画面を表示できること。
	5	各種情報を可変長にて登録し、検索できること。
	6	最新巻号の登録時に、直前号の貸出禁止が解除され、最新号を自動的に貸出禁止にできること。また、登録時に貸出禁止期限を予め設定もできること。
	7	最新巻号の登録時に、直前号の巻号情報、およびローカル情報を初期表示できること。
	8	巻号を「巻/号/通巻」で管理する場合、前号の巻号書誌情報より、自動で巻号予測し初期表示できること。
	9	著者名、叢書名、出版社名、書名等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力が可能であること。
	10	タイトルなどカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては、漢字入力した通りに自動でヨミ振りできること。
	11	漢字で入力された項目を自動的に分かちして、中間検索対象にできること。
	12	豊富なローカルデータを持てること。
	13	ローカル情報に本籍・現在館の詳細情報を持ち、分館業務に完全対応できること。
	14	複数行にまたがったデータを漏れなく入力できること。
	15	対(グループ)となる書誌項目をグループ化して登録できること。
	16	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列する為の序数化の自動付与ができること。
	17	雑誌のJANコードを読み取って受入ができること。
	18	所蔵登録画面でタブ等の切替により1画面で、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること。
	19	内容記事入力の際には1つの書誌に対して制限無く登録できること。
	20	TRC社の雑誌MARC/Tの取り込みができること。
AV管理		
	1	曲名・演奏者・出演者等の各種情報を漏れなく可変長登録できること。
	2	各種情報を可変長で登録し、検索できること。
	3	複本のデータ管理ができること。
	4	マークのタグ・サブ項目とデータベースの属性・項目を任意に設定でき、最適な運用環境を実現できること。

	5 著者名・シリーズ名・出版者名、タイトル等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力できること。
	6 タイトルなどカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては漢字入力した通りに自動でヨミ振りができること。
	7 漢字で入力された項目を自動的に分かちして、中間検索対象にできること。
	8 各種マークに対応した、豊富なローカル情報を持てること。
	9 ローカル情報に本籍・現在館の詳細情報を持ち、分館業務に完全対応できること。
	10 複数行にまたがったデータを漏れなく入力できること。
	11 対(グループ)となる書誌項目をグループ化して登録できること。
	12 検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列する為の序数化の自動付与ができること。
	13 TRC-Tマーク：AVマークを項目のもれなく一括登録できること。
	14 日販マーク：AVマーク(NHKマーク、ニッパンAVマーク、ニッパンCDマーク)を項目のもれなく一括登録できること。
	15 大阪屋マーク：AVマーク(OPL-AVマーク(可変長、固定長))を項目のもれなく一括登録できること。
	16 ジーサーチマーク：AVマーク(Gマーク)を項目のもれなく一括登録できること。
	17 日本図書館協会マーク：AVマーク(日図協AVマーク)を項目のもれなく一括登録できること。
	18 Toccataマーク：AVマーク(Toccataマーク)を項目のもれなく一括登録できること。
	19 所蔵登録画面でタブ等の切替により1画面にて、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること。
	20 請求記号は別置、NDC分類、著者記号、巻冊記号の4つに分けて登録できること。それぞれの入力文字属性に応じIMEのON/OFF/半角制御ができること。
	21 内容細目入力の際には1つの書誌に対して制限無く登録できること。また人名についても制限無く登録できること。
蔵書管理	
	1 館コードにより分館の管理ができること。
	2 持禁区分の設定・変更処理が連続でできること。
	3 資料の除籍・復籍処理が連続でできること。
	4 該当資料が手元に無い場合でも検索から該当資料を発見し、ローカル情報の変更処理ができること。
	5 コード値(所蔵場所コード等)入力時、コード一覧を表示し、選択入力できること。また、キーボードより直接コード値入力もできること。コード選択時は名称にて一覧から選択できること。
	6 バーコード入力により、所蔵場所コード等、区分・コード値変更を連続でできること。また、変更履歴の画面表示、およびバックアップをダウンロードし、変更内容の保存/復元ができること。
	7 ハンディーターミナルで読み込んだバーコード情報より、所蔵場所コード等、各区分・コード値の一括変更ができること。
	8 区分値、貸出回数、最終貸出日等を抽出条件とし、所蔵場所コード等、各種ローカル項目の一括変更ができること。 例：公開配架資料で最終貸出日が特定日以前の資料を、書庫配架に変更する。
	9 マークデータと装備されたバーコードに誤りがあった場合など、書誌(タイトル)情報とローカル情報がミスマッチの時、バーコードの貼り替えをせず、データ側を組替えて対応することができること。
	10 装備されているバーコードが汚れ等で読取できなくなり、別な番号でバーコードを貼り替える場合、各種データのバーコード番号も同期をとって変更できること。
	11 複数タイトルの資料(主に雑誌)を製本(合本)することができること。一度製本したデータを元に戻すこともできること。検索で製本された元の資料情報も参照できること。
	12 館内OPAC及びインターネット向けサービス(WebOPAC)で紹介する「おすすめの本」のバーコード指定を、オンライン登録(バーコード入力)/HHTからの一括登録のどちらでも可能なこと。
	13 「おすすめの本」のバーコード指定資料は、一覧印刷/CSVファイル出力が可能なこと。
	14 資料に付録の有無を登録することができること。
	15 資料の除籍・削除処理時、廃棄予定日以前の場合にメッセージ表示が可能なこと。
	16 資料の除籍・削除処理時、他に利用可能な複本が無い場合にメッセージ表示が可能なこと。
蔵書点検	
	1 蔵書点検前処理等の事前処理無しで蔵書点検が開始できること。
	2 オンライン、オフラインの両方で蔵書点検ができること。
	3 ハンディーターミナルでバーコードを入力し、棚の本の在庫点検ができること。また、不明・除籍・未登録・貸出中未返却(自動的に返却処理される)・配架間違いの資料のチェックリストを出力できること。
	4 蔵書のバーコードの未入力(点検もれ)の一覧が印刷できること。点検もれバーコードのみ入力/累積し、最終的に不明資料を確認できること。
	5 蔵書点検の結果、不明資料一覧を印刷できること。
	6 一定(任意指定可)回数以上の不明資料を一括で除籍に変更できること。なお、除籍資料は任意に復籍もできること。
	7 各館(及び場所)毎に蔵書点検ができること。
発注	
	1 同一書誌に対する二重発注のチェックができること。
	2 新刊マークを利用して、選書・発注処理ができること。
	3 新刊案内のバーコードを走査することにより発注できること。また、発注データを作成できること。
	4 雑誌等の逐次刊行物を年単位で一括発注できること。発注時、指定した刊行頻度情報(月刊等の刊行頻度や発売日または曜日等の情報)より、年間受入回数分の発注明細が表示できること。また、発注明細毎に発行予定日が自動計算され表示できること。
	5 発注の取消しができること。
	6 発注時処理から予算の差し引き処理が自動で行われること。
	7 発注中の本に対して予約できること。
	8 予約が登録されている発注の取消し処理をする際、メッセージ表示が可能なこと。
	9 発注資料のマーク番号を連続入力し、まとめて発注できること。

	10	発注画面で、複本等の所蔵状況一覧が表示できること。自館/全館の表示切り替えもできること。
	11	発注画面で、予約状況一覧が表示できること。自館/全館の表示切り替えもできること。
	12	発注画面で、発注状況一覧が表示できること。自館/全館の表示切り替えもできること。
	13	発注処理の前に選定データ(選書)の作成が可能であり、選定結果を確認後、発注できること。選定入力は資料検索・TOOLi検索と連携できること。これにより、複数館から選定データを起こし、発注館で一括して選定データを確認し発注処理ができること。
	14	TRCマーク：TRC発注データを作成できること。作成・抽出したデータは一覧形式で印刷できること。
	15	TRCマーク：新刊マーク(新刊全件マーク・発注管理マーク)を一括登録し、発注時、選書データとして活用できること。新刊マーク一括登録時「新刊急行ベル」や「新継続」の本は自動で発注データを作成できること。その時、TRC発注データは作成しないこと。
	16	TRCマーク：「週刊新刊全点案内」のバーコード (TRCNo) を走査し発注できること。
	17	TRCマーク：TRCのTOOLiとシームレスな連携ができること。図書館システム画面上でTOOLiと直接通信し、TOOLi検索/ダウンロード/在庫照会/TOOLi発注/発注状況照会/月別注文状況/MARCデリバリー処理を行うことができること。
	18	TRCマーク：TOOLi発注用のデータ作成・送信ができること。また、見計らい・クイック発注にも対応できること。
	19	日販マーク：日販発注データを作成できること。作成・抽出したデータは一覧形式で印刷できること。
	20	日販マーク：新刊マーク(NSマーク可変長、NSマーク固定長、ニッパン発注管理用データ)を一括登録し、発注時選書データとして活用できること。
	21	日販マーク：「ウィークリー出版情報」等のバーコード(NPLNo)を走査、またはISBN入力にて発注できること。
	22	大阪屋マーク：大阪屋発注データを作成できること。作成・抽出したデータは一覧形式で印刷できること。
	23	大阪屋マーク：新刊マーク(OPL新刊マーク)を一括登録し、発注時選書データとして活用できること。
	24	大阪屋マーク：OPLNo、またはISBN入力にて発注できること。
受入		
	1	発注情報を参照しながら、受入処理ができること。
	2	受入処理で予約本のチェックを行い、操作員に通知できること。予約棚確保もできること。
	3	受入行為から予算の差し引き処理が自動的に行われること。また、各種抽出マークやローカルマークによる一括受入時にも予算の差し引き処理ができること。
	4	雑誌等の年間一括発注(継続発注)本の受入で、該当する発行予定日の発注明細を指定して受入できること。ここで受入後、発注明細上では「受入済」と表示し、未受入/受入済の管理ができること。また、欠号や増刊の管理もできること。
	5	各種マークデータにより一括受入後、専用画面で検収処理ができること。また、検収前の本は貸出不可とし、検収後に貸出可能とすることができること。
	6	現物受入の際には館、資料種別、請求記号等毎に設定されたローカル情報の規定値を表示できること。また業務の再起動を行わなくても規定値の変更ができること。
予算		
	1	年度毎・月毎に予算額・発注額・受入額・予算残額・受入残額が管理できること。入力は各区分を細かく設定して行い、表示は各区分を細かく、または全体表示ができること。
利用者サービス-インターネットサービス		
インターネット向けサービス(WebOPAC PC/スマートフォン/タブレット 全般)		
	1	WWWサーバ経由でインターネット上のブラウザ端末から蔵書検索ができること。
	2	最新の複数のブラウザ (IE、Chromeなど) に対応すること。 レスポンシブデザインに対応し、マルチデバイス (PC、タブレット、スマホ) において同等の機能と操作性を有すること。 総務省が提唱するアクセサビリティの基準においてA以上とすること。
	3	書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目等で資料検索できること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索できること。
	4	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字 (例『や』と『ヤ』、『A』と『a』等) どちらで入力しても検索可能であること。さらに、音が同じもの (例『バ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等) も、どちらで入力しても検索可能であること。
	5	検索中断件数の設定ができること。
	6	雑誌資料について、タイトル表示とタイトル毎の巻号一覧が表示できること。また、製本した資料については、どのような資料を製本しているか一覧表示できること。
	7	操作ガイドスは大人用(漢字混じり)、子供用(ひらがな)、英文の3種類に対応できること。
	8	催し物や新刊情報の表示、休館日等の図書館からのお知らせを表示できること。
	9	各機能の利用回数統計が出力できること。
	10	検索項目を特定せず、検索語のみの入力でも検索できること。
	11	No.13の検索機能を各図書館の公開Webサイトへ掲載できること。
	12	複数の単語を空白区切りで入力し、単語同士のAND条件で検索できる。
	13	検索項目を指定してのキーワード検索ができること。
	14	キーワード検索にて、全館対象・自館限定等の館指定ができること。
	15	全文検索ができること。
	16	NDC分類一覧からの分類選択・参照入力ができること。また、この時、NDC8版、9版、10版の版数選択もできること。
	17	著者名=イケナミショウタロウのように、特定の検索条件を事前に登録しておき、ワンタッチで検索できること。
	18	雑誌ジャンル(例：スポーツ、車、旅行、等)を登録しておき、特定ジャンルの雑誌タイトルを一覧表示できること。
	19	ベストリーダー一覧が表示できること。ベストリーダーは資料の分類や利用者の年代を指定して一覧表示できること。
	20	ベスト予約一覧が表示できること。
	21	おすすめの本をテーマとして登録しておき、一覧表示できること。また、テーマは「検索キーワード指定」「バーコード指定」のどちらでも可能なこと。
	22	検索結果一覧は図書、雑誌、視聴覚等の単位で表示すること。

	23	検索結果一覧を並び替えができること。
	24	雑誌資料の場合、タイトル一覧から巻号一覧に展開できること。
	25	巻号一覧は発行年月日の降順に初期表示されること。
	26	一覧表示から一件を選択し詳細表示できること。
	27	詳細画面では主要な項目(タイトル、シリーズ、責任表示等)を初期表示し、展開して詳細事項を表示できること。
	28	詳細画面に所蔵点数、貸出中点数、予約件数が表示可能なこと。
	29	製本資料の場合、製本された子資料の表示ができること。
	30	内容細目や記事内容など、構成要素の書誌事項を表示できること。
	31	Googleブックスとの連携が、サイト毎の設定画面から簡単に設定できること。
	32	Googleブックスと連携し、書影の表示が行えること。
	33	外部サイト(カーリル、Googleブックス)へのリンクを表示し、指定したリンク先の画面が表示できること。
	34	詳細画面で、次ボタン、前ボタンで一覧の明細を移動できること。
	35	詳細画面から予約申込ができること。
	36	予約方式は、直接予約方式・予約依頼方式の選択ができること。
	37	予約件数の制限がかかること、処理館、予約区分、利用者資格、資料毎の件数制限ができること。
	38	所蔵の貸出規則区分により、予約件数の制限がかかること。
	39	延滞利用者に対して、新規予約を行えないように制限できること。
	40	特定の利用者資格のみ予約可能となるよう制限できること。
	41	本人へ貸出中資料への予約を制限できること。
	42	連絡方法、受取館などの予約関連情報を、利用者単位に初期値設定できること。
	43	他館資料に貸出可能な資料がある状態でも、予約できること。
	44	予約申込時、申込内容の確認画面を表示すること。
	45	予約完了時、確認メールを利用者に送信できること。
	46	複数の資料を一括で予約する場合、グループ予約・セット予約(巻揃え、優先順)が選択できること。
	47	利用者カード番号とパスワードでログインできること。
	48	利用者の貸出中資料を照会できること。延滞や予約の状況もあわせて表示されること。
	49	利用者の予約中資料を照会できること。受取館や待ち人数の表示ができること。
	50	貸出中資料照会画面から、貸出延長申込みができること。この場合、延長回数や予約により延長可否のチェックができること。
	51	延滞利用者に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
	52	相互貸借資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
	53	予約中資料照会画面から、予約取消し申込みができること。
	54	旧パスワードの認証入力により、パスワードの変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
	55	パスワードの認証入力により、メールアドレスの登録・変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
	56	メールアドレス変更では、変更確認URLをメール通知し、アクセスを行うことだけで変更完了できること。
	57	利用者初期パスワードの有効期限が設定されている場合、パスワード変更を促すメッセージが表示できること。
	58	予約申込時に指定した連絡方法・受取館・受取ステーションを次回予約申込時に表示できること。
	59	無効利用者に対して利用者サービスの機能制限ができること。
	60	予約申込時、宅配での貸出を指定できること。
	61	簡易検索/詳細検索時、検索キーワードを途中まで入力するとキーワード候補が選択(サジェスト)できること。また、表示されるサジェストキーワードは書誌情報から自動作成されること。
	62	検索結果一覧/詳細画面では、検索キーワードをハイライト表示できること。
	63	検索結果をキーワードでグループ化して簡単に絞り込み検索(ファセットナビゲーション)ができること。
	64	予約を申し込みたい資料を、一時的に保存できること。(予約かご機能) また、保存した資料についてメモ/カテゴリを登録できること。
	65	図書館のトップページに、SNS(Twitter, Facebook)で発信しているタイムラインなどを埋め込むことができること。
	66	利用者がパスワードを忘れた場合であっても、図書館への問い合わせをせずに利用者自身がパスワードを更新できる機能を提供していること。
	67	相互貸借館からの新刊本への予約は、一定期間受け付けないように制限できること。
	68	資料詳細画面から、カーリル(https://calil.jp/)の横断検索機能と連携できること。
	69	詳細検索では、著者名を参照した検索が行えること。
	70	詳細画面では、独自に登録した一次情報リンク情報が表示できること。
	71	外部サイト(カーリル、Googleブックス)へのリンクを表示し、指定してリンク先の画面が表示できること。
SDIサービス		
	1	電子メールによるSDIサービスが提供できること。 ※SDIサービス：特定テーマの最新情報を定期的に提供するサービス 例：「園芸」「光ダイオード」などのキーワードを登録しておき、登録キーワードに合致する資料が登録(受入)されたらば、その資料情報(タイトル、著者、出版者等)をメールで提供する。
	2	利用者自身がインターネット経由で自由に情報提供を受けたい内容(キーワード)を登録できること。
	3	利用者が申し込む情報配信内容について、自動で配信できること。
レプリケーション機能		
	1	基幹業務データベースと公開データベースがリアルタイムで参照できること。

相互貸借	
相互貸借	
	1 借受本の簡易登録ができること。
	2 利用者からのリクエストに応じて、他館への相互貸借資料の借受依頼ができること。借受依頼の際、書誌(タイトル)情報の簡易登録ができること。
	3 借受依頼の際、相互貸申込書の印刷ができること。
	4 借受依頼によって借りた資料が届いた際、先に登録した簡易書誌(タイトル)情報に簡易所蔵(ローカル)情報を登録と連動してリクエスト予約登録ができること。(リクエストした利用者に紐づけできること)
	5 相互貸借資料をリクエストした利用者に貸出できること。
	6 相互貸借資料を他館に返還する際、相互貸借借受資料一覧を印刷し、資料に添付して返還できること。
	7 他館から借り受けた相互貸借資料のバーコードは、そのまま利用できること。また、自館で独自に新しくバーコードを付け替えることもできること。
	8 他館から借り受けた相互貸借資料のバーコードをそのまま利用する場合、自館蔵書と同一バーコード番号の資料でも取扱できること。貸出/返却時に同一バーコードを検知し、職員判断で選択できること。
	9 他館から依頼された相互貸借資料を貸出する際、相互貸借貸出表を印刷し、添付して送付できること。
	10 どの館からどの資料を借りているか画面で表示可能であること。また、借受館へ返却済か等の状態も表示可能であること。
	11 年報(相互貸借館毎・月毎の貸出冊数、借受冊数、分類毎月毎の貸出冊数、借受冊数)や実績一覧(借受タイトル・貸出タイトル)が印刷できること。
帳票	
帳票印刷	
	1 統計資料はExcelと連携し画面で確認でき、必要に応じてプリンタに印刷指示できること。また、Excelで2次加工(グラフ作成等)や保存することができること。
	2 利用者・所蔵情報等、任意の条件によって抽出する機能があり、結果がCSV形式など加工可能なデータとして保存・印刷ができること。CSVファイル項目見出しつきで出力されること。
	3 日本図書館協会調査票に対する項目が出力できること。
	4 統計表(日報、月報、年報)についてひとつの出力指示から複数帳票を出力できること。
帳票	
	1 利用者一覧表
	2 無効利用者一覧表
	3 通知メッセージ一覧表
	4 新着資料一覧表
	5 無効資料一覧表
	6 未利用資料一覧表
	7 図書原簿
	8 図書一覧
	9 館場所要チェック資料一覧表
	10 雑誌タイトル一覧表
	11 貸出資料一覧
	12 仮返却資料一覧
	13 予約資料一覧表
	14 予約在架資料一覧表
	15 予約解除資料一覧表
	16 予約多数資料一覧表
	17 リクエスト処理一覧表
	18 リクエスト統計表
	19 借受予約資料一覧表
	20 発注一覧表
	21 発注短冊
	22 時間帯別利用統計
	23 日別利用統計
	24 月別利用統計
	25 曜日別利用統計
	26 年齢-分類別貸出統計
	27 年齢-地区別貸出統計
	28 地区別資料区分別貸出統計
	29 利用者資格別資料区分別利用統計
	30 資料区分-ステーション別貸出統計
	31 年齢-ステーション別貸出統計
	32 年齢-ステーション別貸出人数統計
	33 ベストリーダ
	34 ベストリクエスト
	35 年齢別毎ベストリーダ
	36 雑誌タイトル毎ベストリーダ
	37 分類別蔵書統計
	38 地区-年齢別登録者統計

	39	蔵書集計表
	40	登録者集計表
	41	貸借館別相互貸借統計
	42	分類別相互貸借統計
	43	相互貸借貸出タイトル一覧表
	44	相互貸借借受資料一覧表
	45	相互貸借申込書
	46	相互貸借返却状
	47	公共図書館調査票
	48	蔵書点検エラーリスト
	49	不明候補資料一覧表
	50	不明資料一覧表
	51	除籍候補一覧表
	52	資料検索結果一覧表
	53	資料検索結果詳細
	54	資料バーコード一覧
	55	利用者バーコード一覧
	56	利用者カード
	57	貸出レシート
	58	督促葉書／未返却者一覧
	59	予約連絡表
	60	予約連絡一覧
	61	配送票
	62	おすすめ資料一覧
	63	利用者総括表
	64	多読者一覧
	65	団体別利用者統計表
	66	統計分類別所属別貸出統計表
	67	曜日別年齢別利用人数統計表
	68	統計分類別貸出実績表
	69	統計分類別利用者資格別利用統計表
	70	所蔵一覧
	71	年齢・地区別実利用人数統計表
	72	資料区分－ステーション別返却統計表
	73	年齢－ステーション別返却統計表
	74	年齢－ステーション別返却人数統計表
	75	OPAC利用件数統計表（館内、Web、携帯毎）
	76	予算区分別利用統計表
	77	曜日毎時間帯毎統計表（前年度比較）
	78	配送実績統計表
	79	典拠一覧表（人名、出版者、件名）
	80	相互貸借資料未返却一覧表
	83	AVブース統計表
	84	アクセス記録参照
	85	地区別年齢別読書記録帳利用統計